

平成27年8月3日～8月9日までの全国の暑さ指数（WBGT）の  
観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について  
（お知らせ）（平成27年度第13報）

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について情報提供をしております。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. 先週（8月3日～9日）の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上（危険）の時間数（168時間中）

1. 伊良湖（愛知県）	36時間
2. 豊岡（兵庫県）	33時間
3. 日田（大分県）	29時間
4. 石廊崎（静岡県）	28時間
5. 福山（広島県）	27時間

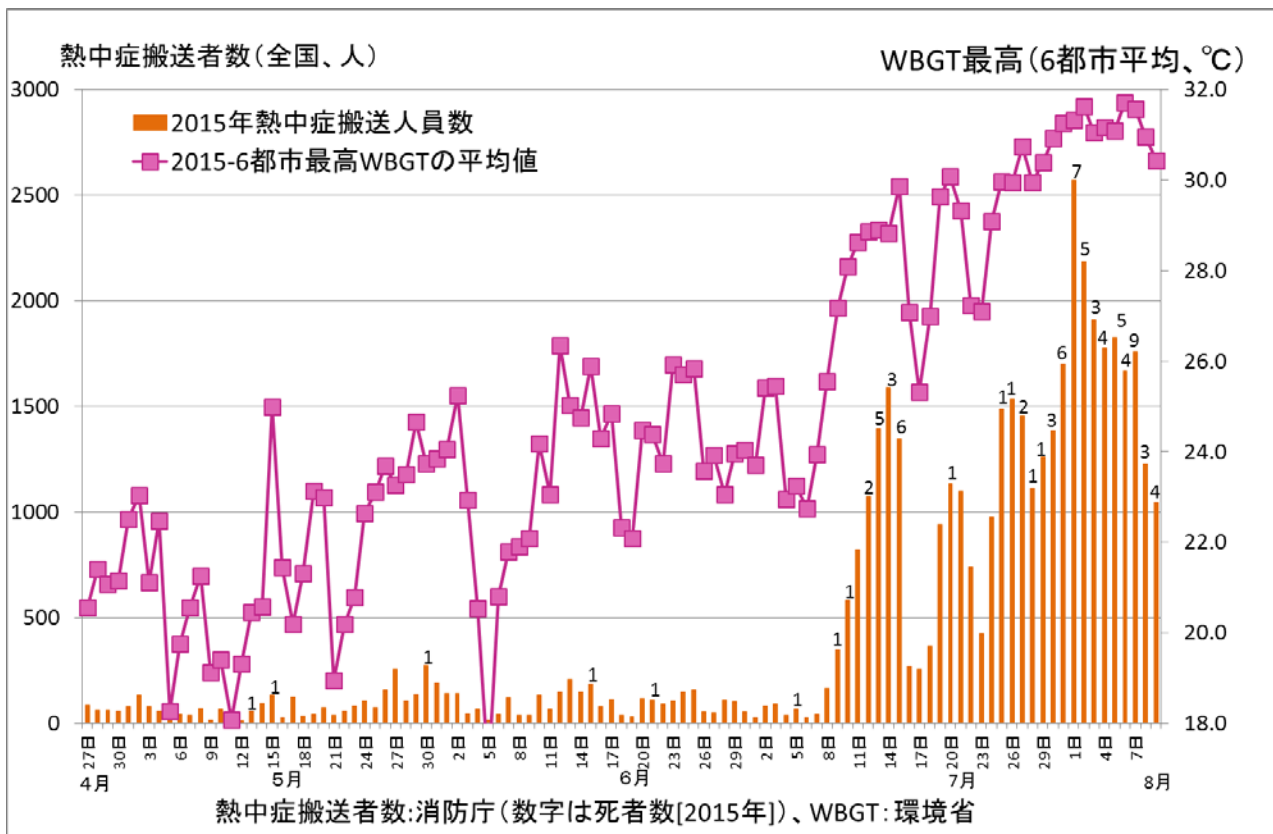
<参考>全国9都市の観測地点

札幌（北海道）	0時間
仙台（宮城県）	0時間
新潟（新潟県）	0時間
東京（東京都）	25時間
名古屋（愛知県）	24時間
大阪（大阪府）	21時間
広島（広島県）	0時間
福岡（福岡県）	20時間
鹿児島（鹿児島県）	0時間

- （注1）暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。  
（注2）暑さ指数31℃以上の時間数は、今回の調査では、先週に引き続き愛知県伊良湖の36時間が最多ですが、時間数が多い地点は西日本中心に広く広がっています。  
なお、暑さ指数31℃以上とは、（公財）日本体育協会の指針において、運動は原則中止レベルです。

### 3. 6都市の暑さ指数と熱中症による救急搬送者数（全国）との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



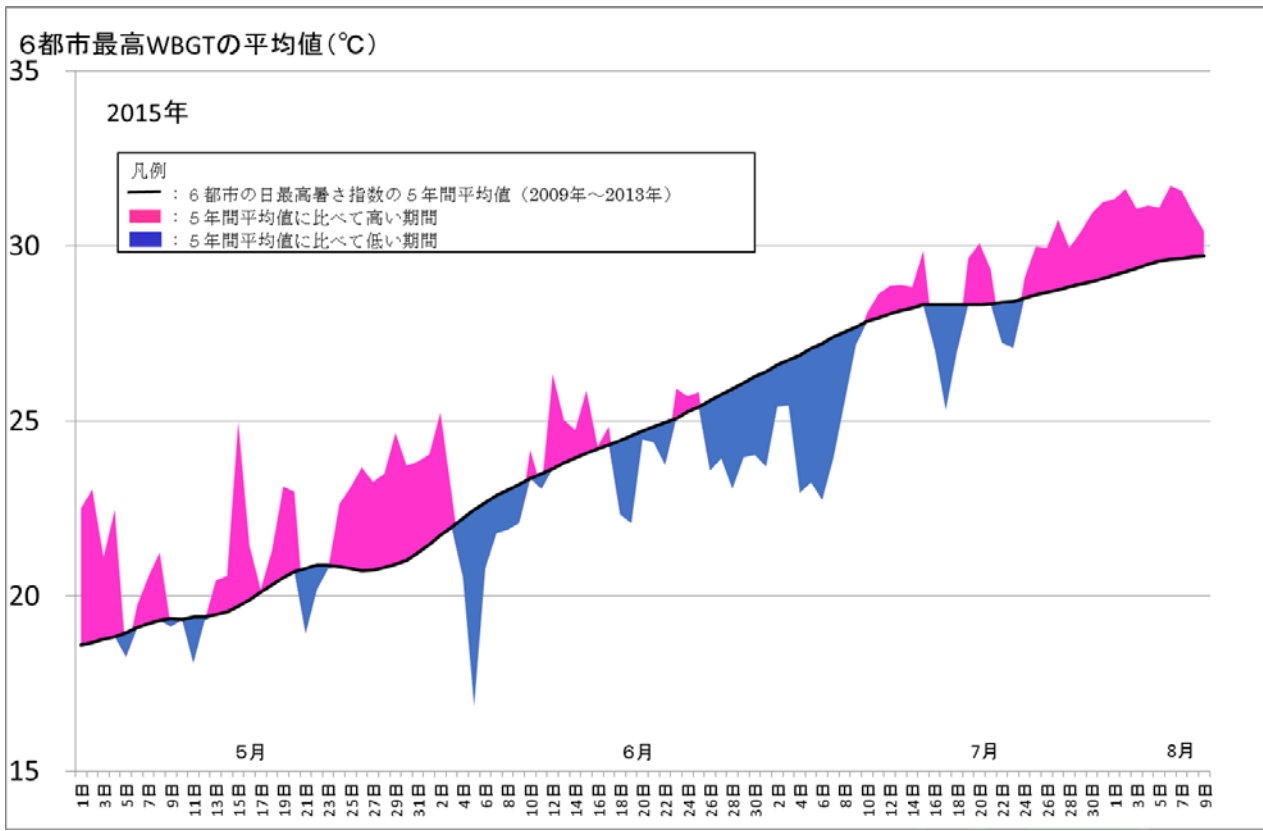
- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、8月3日～9日までの期間中は、先週から引き続き、連日30°Cを超え、今シーズン最も厳しい状況が継続しました。消防庁発表の速報によると、熱中症による救急搬送者数も先週同様、連日1,000～2,000名弱と、極めて多い水準で推移し、1週間の合計では11,219名となりました。また、死者は合計32名となり先週を上回っています。
- 全国的に高温傾向となっています。最も多い日には東北から南西諸島の69地点と、対象とする153地点の半数近くの地点で、日最高暑さ指数(WBGT)が熱中症の危険度の「危険」を示す31°Cを超えました。さらに、北海道を含めて、全国的にすべての都道府県で「厳重警戒」を示す同28°Cを超え、広い範囲で熱中症に厳重な警戒が必要な状態になっています。
- 気象庁発表(8月12日11時時点)の週間天気予報では、「最高気温・最低気温とも、全国的に平年並か平年より高い所が多いでしょう。期間の中ごろにかけて平年より低い所もある見込みです。」とされており、地域によってはこの期間中に、最高気温が35°Cを上回ると予想している日も多くあります。
- 全国的にかなりの高温が継続しています。今後も晴天の日にはかなりの高温が見込まれます。このため、熱中症に厳重な警戒が必要です。不要不急の外出、作業を控えること、室内では無理をせずエアコンを使うこと、こまめに水分補給や休息をとることなど、体調管理に十分に注意してください。特に、ご高齢者の方、およびそのご家族の方は、室温の管理や水分の補給などを行い、熱中症の発症に十分お気をつけください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

#### 4. 2015年の6都市の暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



今年の6都市平均の日最高暑さ指数（WBGT）は7月下旬以降、5年平均値を上回った状態が継続しています。8月上旬は一年でもっとも気温の高い時期であり、暑さ指数が継続して5年平均値を上回っていること、さらに、一ヶ月予報では一時的に平年並みに戻る時期もあるものの、月末までは平年より高くなる確率が高いことから、当面、熱中症への警戒が普段以上に必要です。

7月下旬以降の本格的な高温の状況で、熱中症搬送者数が継続して1,000名を超えています。日中だけでなく、夜間も熱中症を発症しやすい状況となっていますので、十分な暑さ対策を心がけてください。

（注）この項（4項）は、平均を大きく上回る高温が記録されたときに追加してお知らせします。

